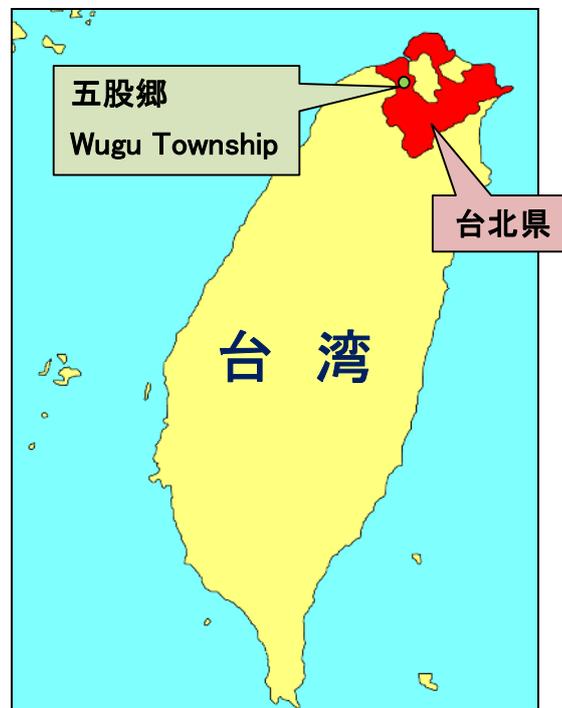


台湾で腎症候性出血熱が発生

2010年4月12日 ProMED 情報(Taiwan Today)



台湾保健省の疾病対策センター(CDC)は、4月9日に台北県五股郷 Wugu Township 在住の36歳の男性がハンタウイルスによる腎症候性出血熱(HFRS)に感染したことを確認しました。

台北県公衆衛生局の責任者によると、この男性は最初3月8日に鼻血及び咳が出現し、3月18日高熱を発して入院しました。3月26日に完全に治癒し退院しました。血液検査の結果2009年以来の最初の腎症候性出血熱症例であると診断されました。

この患者と同居する家族には何ら症状がありませんでしたが、検体が採取されました。保健担当者は、感染源を見つけるため、家と仕事場にネズミに対する罠を仕掛けました。公衆衛生局は、その地域でネズミを根絶するために環境保護局と協同作業を行うことになっています。

台湾CDCの統計によると、台湾では1997～2007年間で、腎症候性出血熱に感染した可能性がある382名の患者が報告され、そのうち9名が確定診断されました。また、同じ期間、ハンタウイルス肺症候群(HPS)115名の報告例のうち、2名が確定診断を受けました。